



(公財) 長浜文化スポーツ振興事業団から、
講座・教室・イベントの情報をお届けします！

ながはま寄席『上方落語競演会』

毎年恒例のながはま寄席。今回は上方落語競演会と題し、桂ざこばをはじめ笑福亭福笑など多くの落語家を迎え、落語好きな人はもちろん、興味を持っている人、初めて聞く人にも十二分に上方落語の魅力をお楽しみいただきます。

【と き】10月30日(金) 19時～21時(18時30分開場)

【ところ】長浜文化芸術会館(大島町)

【出演】桂ざこば、笑福亭福笑、笑福亭三喬
桂吉弥、桂阿か枝、なにわの会(お囃子)

【入場料】一般4,000円(全席指定)

【前売券発売日】8月2日(日)

【前売所】長浜文化芸術会館、浅井B&G海洋センター、
長浜市民体育館、長浜サンパレスほか

☎(公財)長浜文化スポーツ振興事業団〈長浜文化芸術会館内〉☎63-7400 ☎63-7401



桂 ざこば



笑福亭 福笑

婚活応援セミナーを開催します

今時の結婚事情について解説。結婚や婚活について悩んでいる人に、出会いの場・お見合いでの心得などを伝授します。

【と き】9月26日(土) 講演14時～15時30分(受付13時30分)

【ところ】市役所本庁舎 多目的ルーム1・2<西館1階>

【演 題】今時の結婚事情について ～出会いをもっとシンプルに楽しもう～

【講師】株式会社お見合い塾 塾長 山田 由美子 氏

【参加費】500円 ※当日徴収

【対 象】20才以上 ※独身者向けのセミナーです。

【定 員】30人程度(先着順)

【申込み】8月5日(水)～9月18日(金)に氏名、住所、生年月日、電話番号、性別を記入し電話、FAX、メールまたは直接下記まで。

☎・申 社会福祉課 ☎65-6536 ☎64-1767 ✉konkatsu@city.nagahama.lg.jp



「Autumn Coupling Party」～すてきな出会いを 実らせませんか～

主催 湖北地区結婚相談員連絡会

【と き】9月27日(日)10時～15時30分

【ところ】ルッチプラザ〈米原市民交流プラザ〉(米原市長岡)

【内 容】自己紹介～ホットプレートでパエリア作り～食事&トーク～カップリング発表

【対 象】50歳以下の独身の男女

●男性：長浜市・米原市在住

●女性：地域問わず

【定 員】男女各16人 (定員を超えた場合は抽選)

【参加費】男性3,000円 女性2,000円

【申込み】8月3日(月)～31日(月)に氏名、住所、生年月日、電話番号、性別を記入し郵送、FAX、メールまたは電話で下記まで。(電話は平日8時30分～17時)

【その他】抽選結果は後日郵送。参加確定後のキャンセルは負担金を徴収。

☎・申 湖北地域農業センター〈湖北農業会館内〉☎526-0065 公園町9-23
☎62-4143 ☎62-4144 ✉kohoku-nougyou@tree.odn.ne.jp



▲菅山寺銅鐘

菅山寺は大箕山(標高432m)の山頂付近にある山岳寺院です。緑深い山中は現在でも車が入ることができず、もともと近い駐車場から境内まで30分ほど歩かなければなりません。

寺伝によれば、菅山寺は奈良時代に照檀上人によって建立され、平安時代に菅原道真が再興したといえます。本尊不動明王坐像(市指定文化財)は道真の時代から少し下がった平安時代中期の作です。鎌倉時代には、菅山寺僧専曉(1233～1309)によって建治元年(1275)に宋版一切経七千卷(現増上寺蔵・重要文化財)が請来され、多数の仏像や仏画がつくられるなど、隆盛を極めました。同じころ鑄造されたのが、この銅鐘です。

銅鐘は、総高約128cm、口径約70cmで、重量が356kgあります。鐘身に建治3年(1277)5月8日の印刻銘があり、滋賀県内の在銘梵鐘としては、日吉神社(高月町井口)にある寛喜3年(1231)の銅鐘に次ぐ2番目の古さをもつ基準作例です。銘文

には、建治3年に一山衆徒とともに「大工右馬允丹治国則」が鑄造したと記されています。丹治国則は河内国丹南郡(現在の大阪狭山市・堺市・松原市・羽曳野市・藤井寺市周辺)を拠点として、全国各地で活躍していた河内鑄物師の一員です。

この銅鐘があつた山上の本堂脇の鐘楼は、長い年月と積雪などの影響で傷みが進んでいました。そして銅鐘自体も内部に塩類が入り込み、それが水分を呼んで中から錆が噴出するブロンズ病に侵されていました。そこで地元坂口自治会では、平成26年度に銅鐘の文化財保存修理と、麓の里坊である弘善館への移設を実施しました。



◀ 銅鐘搬送の様子(荷台の木枠が銅鐘)

山中での搬送には1トンまで積載できるクローラードンプを使用。雪解けを待って事前に試験走行を行い、前日には土嚢袋や枕木をぬかるんだ山道に配置しました。初日に鐘楼から銅鐘を慎重に降ろして現地で梱包し、翌日は丸1日かけて駐車場まで運んで、そこから修理工房まで輸送しました。

修理は錆取りとクリーニング、脱塩処理が中心で、中から再び錆が浮いてこないように塩類濃度測定で確認しながら時間をかけて進めました。また、表面の防錆処理のための樹脂塗布には何度も試験を重ね、強度を保ちながら照りが出ない濃度を決定しました。そして、里坊で安全に展示するために、十分な強度と美観を兼ね備えた展示台の検討がなされました。

鑄造から738年を経てよみがえった銅鐘は、現在弘善館でその威容を間近にご覧いただけます。

☎高月観音の里歴史民俗資料館
(☎85-2273)